

令和2年6月1日

かがやき新聞 6月号

発行人:別所花脊広河原かがやき隊員 大木康史 連絡先 花脊出張所 番746-0215

『御月八日』の風習

5月8日(金)は旧暦の4月8日に当たり、釈迦の生誕を祝う花祭りの風習と言われる『御月八日』(おつきようか)が、近畿地方をはじめ様々な地域で行われています。

『御月八日』の日、花脊地区などでも、ツツジやヤマブキ等の山の花や枝を竹や木の先に結び、家の軒先に立て草餅などをお供えして、五穀豊穰・無病息災を願う風習があり、各家々に飾られている風景が見られたそうです。

現在は行われなくなり、その美しい風景がまた見られたらいいとの思いから、別所の藁細作家 藤井さんの呼びかけもあり、地域の有志の方々が数年前から復活させる活動に取り組まれています。

今年は、緊急事態宣言の中で集まっていた活動、いわゆる3密を避けるため、各家庭でそれぞれ作って飾るという形になったとのこと。

来年は私も参加して、天高く花を飾り、五穀豊穰・無病息災を願いたいです。



天高く飾られたお花(別所町)



小さめの御月八日飾り(原地町)

かきつばた

杜若家の『カキツバタ』

広河原杓子屋町にある杜若(かきつばた)家の庭園で、初夏を迎えるこの時期にカキツバタが一斉に咲き出しました。

庭園のカキツバタは、第55代文徳天皇の第一王子惟喬親王お手植えとの言い伝えがあり、約1200年にわたり杜若家が代々守っておられます。様々な地域から花愛好家等の方々の見学があるそうで、謂れのあるとても有名な花です。

当家の杜若さんから、肥料や農薬を使わず日々の草むしりなど気を使って大切に管理されるお話や、毎年最初に咲くカキツバタの花を毎日お参りする池の中の井天様に供えすることなどをお聞きました。

お話からカキツバタを代々にわたり大切に守り受け継ぐご苦労や、花への深い慈しみのお気持ちを知ることが出来ました。

花が好きな私は、かがやき隊として着任する前から何度か訪れており、訪ねるたびに表情が異なるカキツバタの美しさに魅了され、癒されていました。

今回、四季咲きとお聞きした当家のカキツバタ。雪中に凜と咲く姿が大変美しいとのこと、冬にまた取材してみたいと思います。



池の中央に祀られた井天様



見事に咲いたカキツバ

これから蒸し暑い日が続きます。地域の皆様には、熱中症などにくれぐれもご注意のうえ、元気にお過ごしください。